

調査結果と授業改善のポイント〔小学校・社会〕

社会については、児童の平均正答率は67.7%で、全国平均を1.9ポイント下回っている。

種別ごとに見ていくと、「わたしたちの生活と情報」で2.1ポイント、「わたしたちの生活と環境」で1.5ポイント全国平均を上回っている。一方、「工業生産と貿易」で10.3ポイント、「日本の国土と人々の暮らし」で7.7ポイント全国平均を下回っている。

観点別正答率では、「社会的事象についての知識・理解」が2.2ポイント全国平均を下回っている。

出題形式別正答率では、「記述式」が3.9ポイント全国平均を下回っているのをはじめ、全ての形式で全国平均を下回っている。

受検児童数	設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(全国) %	全国との差
876人	32問	67.7	69.6	-1.9

種別		対象設問数	平均正答率(県) %	平均正答率(国) %	全国との差	
問題の内容	国土の自然などの様子	世界の中の国土	3	68.6	69.9	-1.3
		日本の国土と人々の暮らし	4	62.6	70.3	-7.7
		わたしたちの生活と環境	3	82.8	81.3	1.5
	農業や水産業	日本の農業	5	65.4	68.2	-2.8
		日本の食料生産	4	59.3	61.0	-1.7
	工業生産	自動車をつくる工業	5	77.7	76.3	1.4
		工業生産と工業地域	3	68.6	69.3	-0.7
		工業生産と貿易	2	28.0	38.3	-10.3
	情報産業や情報社会	わたしたちの生活と情報	3	82.3	80.2	2.1
	評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	13	61.6	62.0	-0.4
社会的な思考・判断・表現		21	61.2	61.8	-0.6	
観察・資料活用の技能		21	67.5	69.2	-1.7	
社会的事象についての知識・理解		29	70.6	72.8	-2.2	
出題形式	選択式	24	70.4	72.3	-1.9	
	短答式	6	69.6	70.9	-1.3	
	記述式	2	29.0	32.9	-3.9	

○：全国平均正答率を上回っている問題（上位3題）

▼：全国平均正答率を下回っている問題（下位3題）

（ ）：内の数値は県と全国平均正答率の差

【設問ごとの定着状況】

〈国土の自然などの様子〉

○問伐の意義を問う問題（+4.4）

○我が国の領土の北端、南端、東端、西端を問う問題（+1.1）

▼日本と世界のおもな川の長さとかたむきを表した資料から、日本の川の特徴を読み取る問題（-21.0）

▼山脈といった地形の名称を問う問題（-10.7）

▼アメリカ合衆国が面している海洋を理解しているかを問う問題（-4）

〈農業や水産業〉

○資料をもとに、日本の農業の課題について問う問題（+17.6）

▼収穫後の米を保存する施設の名称を問う問題（-24.5）

▼遠洋漁業の生産量の変化を表した資料から、遠洋漁業の生産量が減少した理由を考え表現できるかを問う問題（-8.2）

- ▼学習問題の解決にかかわる適切な資料を選択し、正確に読み取る問題（－8. 2）
- 〈工業生産〉
- 大工場と中小工場を比較したグラフを読み取ることができるかを問う問題（＋4. 4）
- ▼日本の輸出について、複数のグラフをもとに判断することができるかを問う問題（－10. 6）
- ▼グラフをもとに、貿易摩擦の問題について問う問題。（－10. 0）
- 〈情報産業や情報化社会〉
- 放送に従事している人の仕事内容について問う問題（＋1. 7）

【授業改善のポイント】

〈国土の自然などの様子〉

□地図や地球儀などを活用した学習指導の重視

- ・日本と世界のおもな川の長さとかたむきを表した資料から、日本の川の特徴を読み取る問題では、まず資料の縦軸と横軸が何を表しているかを確認する。次に河口と源流とを直線で結び、線の傾きをとらえられるようにする。
- ・地形を指導する場合は、地図帳の他に立体地図やその場所を写した写真など、複数の資料を用いて指導するようにする。

〈農業や水産業〉

□基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用して、我が国の農業について考え、表現できるようにする指導の重視

- ・我が国の農業を理解させるには、学習のまとめで、カントリーエレベーターや生産調整といった用語を用いて、まとめさせるようにする。
- ・グラフ資料は、まず資料名を読み、次に縦軸と横軸が何を表しているかを読むというように、資料の読み取りの方法を繰り返し、継続的に指導するようにする。

〈工業生産〉

□基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用して、我が国の工業生産について考え、表現できるようにする指導の重視

- ・我が国の工業生産について、複数の資料から正しく読み取り判断できるかを問う問題では、読み取った事象を比較・関連・総合させるために、矢印（→）等を使い、整理して表せるように指導する。
- ・「貿易摩擦」等、日本と相手国といった考え方が異なる問題を問う場合は、立場が異なるそれぞれの立場から問題を考えさせ、意見交換をさせるようにする。

【正答率の高い設問】 上位3題

No	設問の内容	正答率 (%)
1	自動車の生産過程における塗装について理解しているかを問う問題	89.4
2	工業製品の種類を問う問題	88.6
3	関東平野の特徴について理解しているかを問う問題	87.9

【正答率の低い設問】 下位3題

No	設問の内容	正答率 (%)
1	日本の輸出品について、複数のグラフをもとに判断することができるかを問う問題	22.7
2	遠洋漁業の生産量が減少した理由を、資料をもとに考察することができるかを問う問題	24.3
3	日本海側の降水量が冬に多い理由を、資料をもとに考察し、表現できるかを問う問題	33.8

【無解答率の高い設問】 上位3題

No	設問の内容	無解答率 (%)
1	遠洋漁業の生産量が減少した理由を、資料をもとに考察することができるかを問う問題	17.6
2	太平洋ベルトについて理解しているかを問う問題	15.0
3	日本海側の降水量が冬に多い理由を、資料をもとに考察し、表現できるかを問う問題	13.6